発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番
③3034番
編集兼発行人　澁田紀生
年間600円　送料共

三池CO患者 遺族を守る会 ニュース

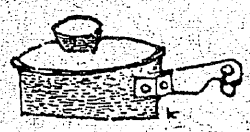
〈第八号〉

怒りを壁に向けて

三井は、労仂者を氷のように厚い低賃金政策の壁で苦しめている遺族を放りだし、CO患者のマツ殺をたくらむ鬼のようなその手で。ことしの春闘でこそ1万円賃上げ要求全額獲得の決意を胸に、三池主婦会の松岡みよのさん、豊中きよえさん、田中まつえさん、平川弘子さんは、現在のくらしの実態を語つた。

人間の生活ではない

かろうじて支えてきた〝家計〟



松岡さんの話

いかに坑外夫とはいえ、二十二年も勤続してきた主人の二月分の賃金は二万五千円。たとえ長女と二女は就職しているものの、三女はことしやっと高校を終えて社会に出るばかりという私の家で、これでどうして暮らしてゆけますか。

仕方なく私が病院の給食婦として仂く給料が一万六千五百円。これでかろうじて家計をささえてきました。

中でも次女など、とうとう高校へもやれませんでした。親族会議まで開いて「何とかやる道はないものか」と頭をしぼったのでしたけど……。

そんな状態の中で、主人が病気のために天領町の三井本院に入院したときほど、こまったことはありません。

たとえ主人の賃金を受けても、米屋の借りは五歩の利子でよそから借りた金で払いをすませなければなりませんでした。病院のつき添いのおばさんに払わねばならず、主人にのんでもらう牛乳代は払わねばならず、お小使いも要るという具合いで、主人の賃金は病院でパッと消えました。

いまこそ就職している娘たちが帰ってきては笑い話になりますが、卵子をいっちょ割って、三ばいの卵子どんぶりをつくり、三人の子どもに食べさせたのもそのころです。

おかげで子どもたちはどこへ出しても、心配せずにすむほどしっかり者に育ってくれました。

長女は、合唱詩劇の皆さんの「みいけの闘い」の東京公演を見にいったそうですけど、そのときの感想を私のお友だちのところに手紙でこう書いてきました――。

「とても感激しました。私の両親の生きてきた道の正しかったことを、改めて知りました。いま私はこんなにすばらしい両親に育てられたことを、誇りに思う心でいっぱいです」

いまその主人と手をとって、私たちの賃上げ要求をとり、闘う家計を守るためにがんばりたいと思っています。

豊中さんの話

長男が東京学芸大学の三年、長女が高校三年、次男が小学五年で一番下の子どもは生まれたばかりでお乳もでず、だからといってミルク代もありませんでした。

その上「どこそこのお家ではテレビを買いなさったよ」「何ば買いなさったよ」などといってくる子どもがいじらしくてたまらず、お金が足りないところから、やむを得ず田舎の親類先にたよっていったことと合せて、苦しい思いをしたそのころのことをいまも忘れることはできません。

とにかくいまの私たちのくらしは人間の暮らしではありません。

田中さんの話

ことしでちょうど入社後三十年になる主人の賃金が、差別配転のため本社の雑作業の仕事をしているとはいえ一カ月の総かせぎが三万七千五百円。手取りはわずか一万九千七百円です。

ところがある私鉄のバスガイドをしている私たちの娘の賃金は、入社後たった二年だというのに、たとえ六十時間ほどの時間外労仂があるにしましても、同じ月の総かせぎが三万四千七百三十八円で渡額が三万九百六十三円。さかさまなんです。

長男が高校の三年、次男が高校一年という私たちの家庭では、娘が家に加勢してくれるお金がないかぎり、どうして家計をやりくっていくことができましょう。

私はいま三池主婦会の役員として、主人や子どもにささえられながら活動していますけど、男の子たちは新聞くばりをやっています。上のが朝刊を五年間も、下のが夕刊を三年間も。それで上のが月に二千六百円、下のが千七百円の賃金で、これで子どもたちは修学旅行費を積み立てたり、サッカーのシューズを買ったり、簿記や珠算の検定試験の費用に当てたり必要な本を買ったりしています。

本好きの下の子の本棚に、ある日世界百科辞典が二十四冊もならんでいるのにびっくりしましたら娘から贈られたものでした。

主人は性来お酒が好きな人です。三池闘争前はいつものように午前さまでしたのが、その後はピタリと止んで家で飲んで楽しんでくれるようになりました。

さいわい私には幼いときから大酒のみだった父と、その父が三井田川に仂いていたとき落盤がもとで死んでいったとき、小学一年生だった私がたった一人で死に水をとったほど心を結ばれた経験もありますし、たとえ米びつはカラッポになっても、主人が好きなお酒をのむことは覚悟しています。

父を落盤で殺し、いままた主人の労仂を低賃金で搾取し、家族全体をいまのドン底生活につき落としている三井は、CO患者や遺族の皆さんとまったく同じに、私にとっても許されません。私は最後まで抵抗をつづけ、生活と権利を守るため闘っていきます。

平川さんの話

三十七才にもなる運転手の主人の賃金の一月の実績が基準内二万二千九百三十二円、家族手当などを含めてさえ二万六千五百四十円。手取りはうんと減って一万四千八百円です。

いま私は市内のある県事務所の臨時の事務員をして仂いています。いま一万五千円の賃金をもらっています。

はじめは闘う家計を維持するための内職のつもりでしたのが、もう早や勤めはじめてから三年もたつたいまでは、ちゃんとその時期がくれば「賃金を上げて下さい」と要求も提出できる婦人労仂者になりました。

私たちは小学四年の女の子と二年の男の子がいますけど、ふた親が家をそとにしての共仂きの私たちとしましては、留守中子どもたちがどんな誤まちを仕でかさないともかぎらないし、おそろしくておそろしくて仕事も手につかない思いです。

ですけど主人が低賃金の上に、女の子が病気したときの費用をまだ返済しつづけていかなければならない状態のもとでは、私が仕事をやめることもできないのです。疲れて帰った夜など、ときには子どもたちが「お母さん、肩をたたいてあげようか」と、小さな手で肩をたたいてくれることもめずらしくはありません。

諸物価はどんどんあがってゆきますとき、これまでのようなわずかな賃上げでは焼け石に水です。家族のだれかが病気でもしたら、私たちの家計はいったいどうなりますか。

ことし四人目の犠牲

殺された主席係員

三日、三川鉱の主席係員の谷口信浦さん(四十五才)が死んだ。ことしにはいってから、四人目の犠牲である。三川鉱本層二十六卸巻立で、たった一人で炭函の操作中、炭車と炭車との間に体をへの字型にはさまれ、ひとまず事故を発見した人びとから助け出されたものの、ついに帰らぬ人となった。

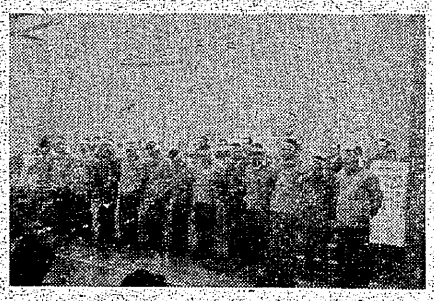
谷口さんの死について「あれではどうぞ殺して下さい。といってるようなもん」との声もあるように、もともと一人でなすべき仕事ではなかった。そんな仕事をあたえるような環境をつくり出している三井鉱山の責任を、改めて問うべきである。まさにいまの三池の坑内は、まったく恐ろしい。

不当処分に抗議ストー三池労組

三池労組は、宮浦の江上正弘さんに対してこのほど会社側が加えてきた不当処分(十五日間の出勤停止)に対して、全組合員一時間五十分の時限ストをもって抗議した。

本紙号外で伝えたように、死亡者四人をだしたほか重大災害をひき起こしながら、なお坑内保安をかえり見ようとしない転制に対して、いよいよがまんできなくなった江上さんが、厳重に抗議をしたことが、こんどの処分の理由となったのである。

江上さんの抗議に対して「規則違反じたっちゃ悪かとは思わん」「上司の指示通りにすればよか」などと、とりあおうともしなかった湯浅係長の態度の中に、三井の姿勢がつらぬかれているが、坑内保安を守るために行動する者がひどい仕打ちを受けるような状態は断じて改めさせねばならない。



三池労組臨時総会で激励をうける初島労組員

厳しい対決を決意

合理化攻撃強まる

大牟田 春闘

三池労組は、三井と第二組合の裏切り幹部がぐるになって、低賃金で苦しんでいる労仂者の実態にフタをしながら、七十円の賃上げ要求案をでっち上げて早くも、一万円要求に遺族補償の継続、CO患者に対する完全補償などの要求を合わせて闘おうとする前にはりめぐらしてきた、厚い壁をぶち破って闘うが、その背景をなす大牟田の春闘情勢の特徴は、七〇年安保にそなえるためのわが国の支配層の準備が着々すすんでいることで、それは厳しい合理化攻撃となって現実化してきている。

市職労に対しては、給料表改悪・勤務評定の攻撃、目覚めてきたハイタク労仂者には暴力的な分裂攻撃、国鉄労仂者には無人駅化や踏切りの無人化による大量首切り、全電通労仂者には軍事的たくらみをかくした恐るべき合理化攻撃がくるというふうで、三池をふくめ、大牟田では厳しい対決を決意している。

大牟田で二つの勝利

撤回させた首切り

ハイタク労組

市職 賃金体系改悪阻止

大牟田の初島タクシー労組(全国一般労組に加盟したばかり)は一組合員に押しつけられてきた理不尽な首切りを遂いにはね返すことができた。

同労組はことし一月末に誕生したばかりで、経営者は「いまのうちにぶっつぶそう」と、活動家の一人を首切ってきた。ところがそのため同労組の団結はかえって固まり、大牟田地評支援のもとに無期限ストに突入して闘ったところ経営者側が手を上げたわけである。

大牟田市職労も、三井とぐるになった反動市長が押しつけてきたきわめて悪質な賃金体系改悪案・勤務評定を、長い闘いの末見事はねかえすことができた。